

長崎北病院 伝言板 6月号

令和7年6月1日発行

6月。水無月（みなづき：水の月）。南九州は梅雨入り。東京は10週連続週末が雨。長崎はまだ晴れの日が続いています。時には雨も欲しいけど長雨、大雨は勘弁。でも梅雨入りももうすぐでしょう。暖かく湿ってとると出てくるのが「虫」。ムカデ、ダニ、蚊、ハエ、ついでにカエル、ヘビ。あまり歓迎されない面々。近寄らない、寄せ付けない、噛まれない。でも虫に好かれる人っていますよね😊



「虫の季節到来」

例年 暖かくなると「虫」の季節。嫌な虫も増える。刺される、噛まれるのはもちろん嫌ですが、媒介される感染症はもっと大変。多くはありませんが、初期に診断しないと重症化します。当院でも時々経験します。まずは「ダニ」が媒介する感染症です。

①SFTS(重症熱性血小板減少症候群)。以前にもお話しした事がありますが、名前の通り高熱が続き出血を止める働きがある血小板が少なくなります。重症化すると意識混濁、多臓器不全なども起こします。死亡率30%程度と重篤な病気です。イノシシなどに寄生しているSFTSウイルスを持った「マダニ」に人が刺されることで感染します。先日のNHKの放送で今年は12名が感染し1名が亡くなっているとのことでした。当院にも昨年1名、今年も1名の患者さんが入院されてこられました。②日本紅斑熱。これも「マダニ」に刺されて感染。頭痛、発熱、倦怠感が起こり、発疹が出現します。どこかにマダニの刺し口が見つかることが多い。ウイルスではなくリケッチアという病原体で起こり、抗菌薬が有効です。③次はダニの一種「ツツガムシ」に刺されて起こる「恙虫(ツツガムシ)病」。



ツツガムシがリケッチアを媒介します。症状は日本紅斑熱によく似ており頭痛、発熱、発疹、リンパ節腫脹。これも抗菌薬治療が有効です。マダニ、ツツガムシともに山の中は勿論ですが、草むら、庭、畑など近いところにも普通にいます。イノシシ、シカをはじめとした野生動物が最近では人家の近くにも出現しています。これらからダニが落ちて、そこを通る人やイヌ、ネコなどに取り憑いてそこから感染します。ツツガムシは土の中に住んでいてそこから人に取りつきます。草むらに入る時や農作業などでは長袖、長ズボン着用。虫除けを使用。家に帰ったらダニがついていないか体と服の確認が大切です。もしダニが食いついていたら細いピンセットで皮膚近くをつまんで取るか、皮膚科を受診しましょう。長崎、特に北部地区はSFTS、日本紅斑熱、ツツガムシ病の多発地域です。SFTSは北部全体、紅斑熱は長与方面、ツツガムシ病は西彼杵半島に多いようです。気をつけましょう。



日本脳炎も要注意です。最近では忘れられがちですが再注目されています。コガタアカイエカという「蚊」が媒介するウイルスで起こる脳炎です。高熱、頭痛、意識混濁など。豚が感染し、それを刺した「蚊」が人を刺して感染すると言われています。約10年前対馬で日本脳炎が集団発生しました。近くにブタはおらず原因不明でした。調べていくとイノシシが感染していました。イノシシは最近はずぐ近くまで進出しています。日本脳炎も再度気をつけておく必要があります。



古くからある破傷風。土の中などにいる破傷風菌が傷から入って発症します。この菌は酸素のないところで繁殖し毒素を出します。そのため刺し傷など菌が深く入ると発症しやすくなります。傷をきれいに洗う、傷が深かったり、泥などで汚染された時はワクチン接種が必要です。初期は口が開けにくい、筋肉が突っ張るなどですが進行すると全身痙攣となります。当院でも何例か経験があります。いずれも気をつければ大丈夫です。準備、予防して安全に自然に親しみましょう。(A.S.)

